

# 日常の中の危険

～危険を知ることによって安全を守る～

# 目次

- I. リフト自体の危険性
- II. どこが危険？
- III. まとめ

# I. リフト自体の危険性

リフトの最も危険な点はその重量である

京都共配 ニチュ1.5t車の場合



=



フォークリフト1台  
車両重量:約3100kg

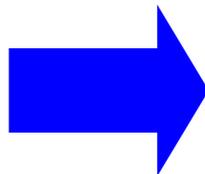
軽自動車4台弱  
車両重量:約800kg × 4台弱

## Ⅱ. どこが危険？

① 一見何もない様な気もするが・・・



角度を変えると



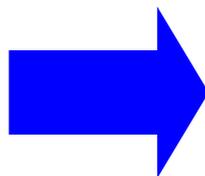
解説: フォークリフトの爪が上げたまま止まっています。目線の高さと同じになると爪はほとんど見えません。気づかず歩いて行けば大ケガです。爪は地面に降ろしましょうと言うのはこういう事です。

## Ⅱ. どこが危険？

②前のパレットを取ろうとしています・・・



角度を変えると



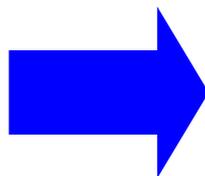
解説: フォークリフトからは全く見えない所に物があったり人が作業をしていることがあります。もしこのパレットを取って前進していたら・・・または取り損なって爪でパレットを押してしまったら・・・重大事故になります。バック走行や荷役前に一旦停止をしましょうと言うのはこういう事です。

## Ⅱ. どこが危険？

③このパレットを取ろうとしています・・・



取ってみると



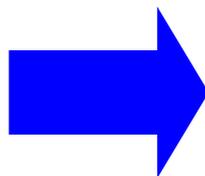
解説: フォークリフトには作業できる限界重量があります。特に重量物を作業するときは注意が必要です。荷物の重量に負けて後輪が浮いてしまってます。もしこのまま上げてしまったらリフトの転倒か運転者が投げ出されてしまいます。爪の刺す深さでも限界重量は変わります。重量物は気をつけましょうと言うのはこういう事です。

## Ⅱ. どこが危険？

④荷役中のパレットを前のパレットに近づけています・・・



角度を変えると



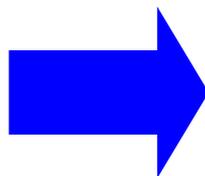
解説：運転手から全く見えない所で商品事故が起ころうとしています。  
特に外回りでは場所を縮める為にギリギリまでパレット同士を近づけます。  
前後の大きなはみ出しは思わぬ事故の原因になります。  
構内現場では気にならないことでも外回りでは危険に変わります。  
事前に事故を誘発する様な積み付けはやめましょう。

## Ⅱ. どこが危険？

⑤この段積みパレットをとろうとしています…



角度を変えると



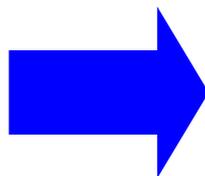
解説: 一見大丈夫そうな段積みパレットですが、実は非常にバランスが悪い段積みになっています。重さの重心が片寄るとリフト作業をした際に転倒などの事故が発生します。時にはパレット揃えではなく荷物揃えで段積みすることも必要です。

## Ⅱ. どこが危険？

⑥この段積みパレットをとろうとしています・・・②



角度を変えると



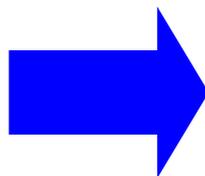
解説: 一見大丈夫そうな段積みパレットですが、実は非常にバランスが悪い段積みになっています。奥行きが小さい商品の上に奥行きの大きい商品を段積みすると当然転倒します。リフト運転手から見ると全く危なそうには見えないのがポイントです。正面だけでなく横のバランスも考えましょう。

## Ⅱ. どこが危険？

⑦このパレットを取ろうとしています・・・



角度を変えると



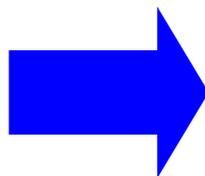
解説: 一見問題なさそうですがリフトの爪が後ろのパレットまでかかっています。またパレットだけではなく後ろの商品を爪突きしたり押ししたりします。リフトの爪の長さやパレットの奥行きを確認しないと大きな事故が発生します。リフトの爪に白いラインで印をつけるのはこういった事故を防止するためです。

## Ⅱ. どこが危険？

⑧このパレットを運んでいます…



角度を変えると



解説: 運転手から見ると問題がありそうには見えません。

実際にはこれだけ大きく商品がはみだしています。このまま動くと間違いなく破損につながります。意外と後ろは見えないものです。

運転手からみて死角になるようなはみだしや積み付けはやめましょう。

## Ⅲ. まとめ

よく“安全に“と言うけれど・・・

まずどんな危険があるのかわからないと危険を危険とは思わない。  
危険と思わなければそこには安全もない。

1人1人が経験したことはそれほど多くないが  
皆が“危ない”“怖い”と思ったことを出し合って共有していけば  
大きな知識・経験になる。

知識・経験を得ることで危険を知り安全を考えよう。

『危険を知ることで安全を守る』ということです。